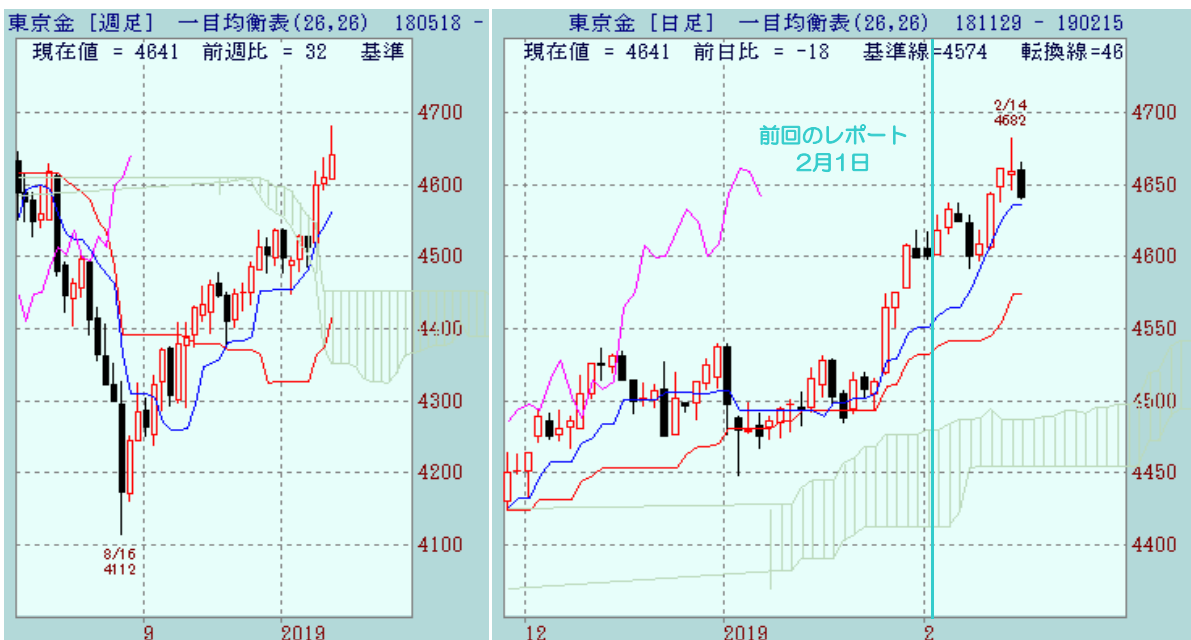




前号のおさらい：東京金の一目均衡表

発行日：2019/2/15



前回2月1日発行のテクニカル分析において「東京金は直近では上側にひげのある陰線となり上値の重さを示しているが、レンジ上限がサポートラインとなる可能性が高く、転換線や基準線が重なっていればより強い支持線となり、調整下落もそこまでとなるだろう」と分析した。その後は続伸し転換線に支えられて4692円まで上昇した。また、いったんは調整下落したものの4600円の台では支えられていることから、今後4600円がサポートラインとして機能しそうだ。転換線を割り込んだ場合でもこの支持線や基準線に支えられて反発することが予測される。

TOPICS ポリンジャーバンド

ポリンジャーバンドは米国人のジョン・ポリンジャー氏が開発したもので、移動平均線にボラティリティ(変動率)の概念を組み入れたもの。価格が移動平均線の周りに正規分布していると仮定し、標準偏差を移動平均線の上下に2本の線で表したものだ。

1. バンドを抵抗として逆張りする方法

価格が $+2\sigma$ (シグマ) と交差したときに売り、 -2σ と交差したときに買いとする、平均値への回帰を前提とした逆張り戦略。価格が 2σ 内で変動する確率は約95%であることから、理論的には価格は 2σ の範囲に収まることが通常であり、 2σ を越えるということは、過去の値動きから見て「異常な価格」であり、いずれ修正されるという考え方。実際にポリンジャーバンドが拡大していない局面においては、この方法が有効なものとなる。

2. ボラティリティ・ブレイクアウトを使って順張りする方法

ボラティリティ・ブレイクアウトは、収縮し接近したバンドが横ばい状況になった後にバンド幅が拡大し始め、価格が $\pm 2\sigma$ の外で引けたときに、そのブレイクした方向にポジションを建てる方法。これは小動きの中でエネルギーを溜めた相場が、ボラティリティの高まりを見せてバンドが突破したときにトレンドが発生する可能性が高いことを利用するもの。

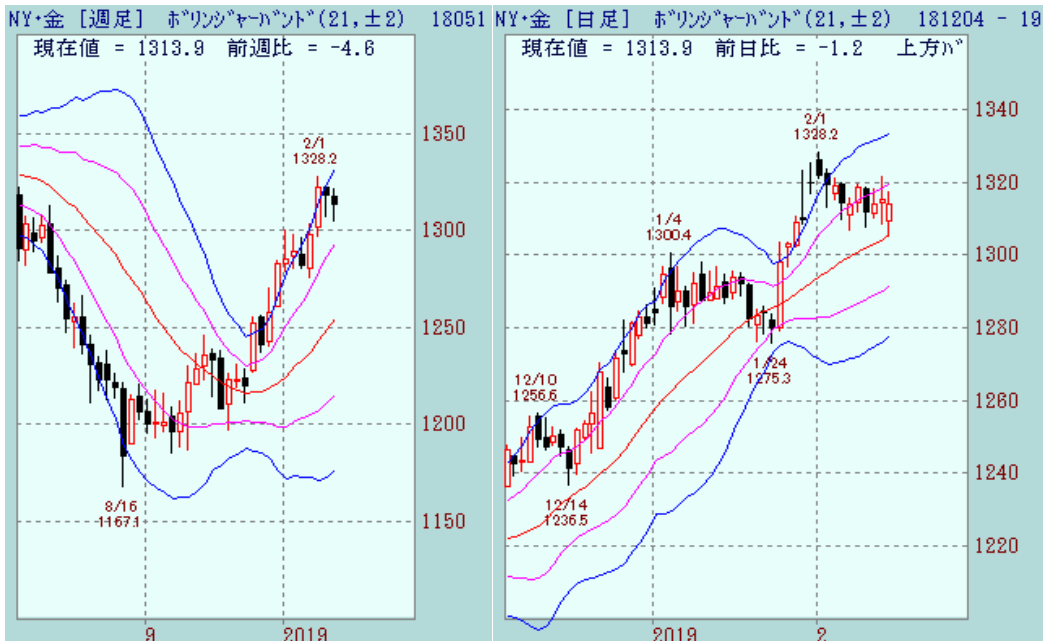
ボラティリティ・ブレイクアウトをした相場は、通常バンドの拡大とともに、バンド上を動く可能性が高く、これを「バンド・ワーク」と呼び、その後バンドの拡大が収縮へと転じるところが手仕舞いのポイントとなる。

製作者のポリンジャー自身は、逆バリで利用する単純な利用法を否定し、ボラティリティ・ブレイクアウトを使った順張りを薦めている。その大きな理由としては、相場が統計学で定義するような正規分布にはなっていないということが挙げられる。

TOPICS 金市場をボリンジャーバンドで見てみよう

NY金は上昇トレンド継続で押し目を拾いたい

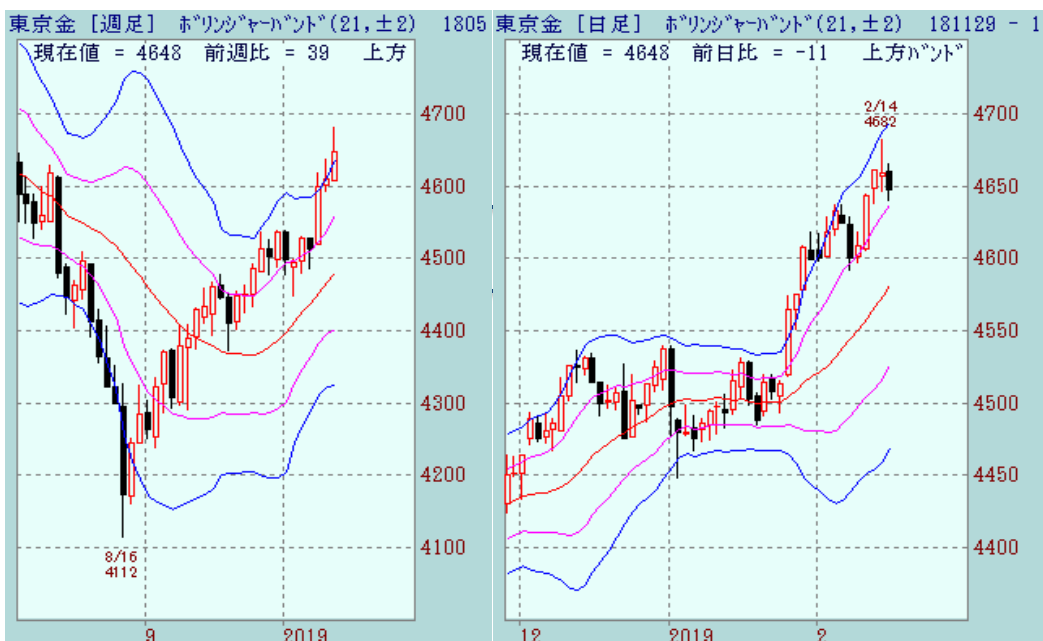
NY金



週足は1328.2ドルの直近高値から反落しているものの、プラス2σに沿って上昇している。日足はプラス1σを割り込んでいるが、センターライン付近では底堅さを示しており、昨日の取引では反発している。週足で上昇トレンドが顕著であることから、日足では押し目買いを狙いたい局面が続いており、センターラインやマイナス1σからマイナス2σにかけてはそれぞれのラインが上向きを継続している限りは押し目を拾っていきたい。

東京金はプラス2σが上向きのうちは買い

東京金

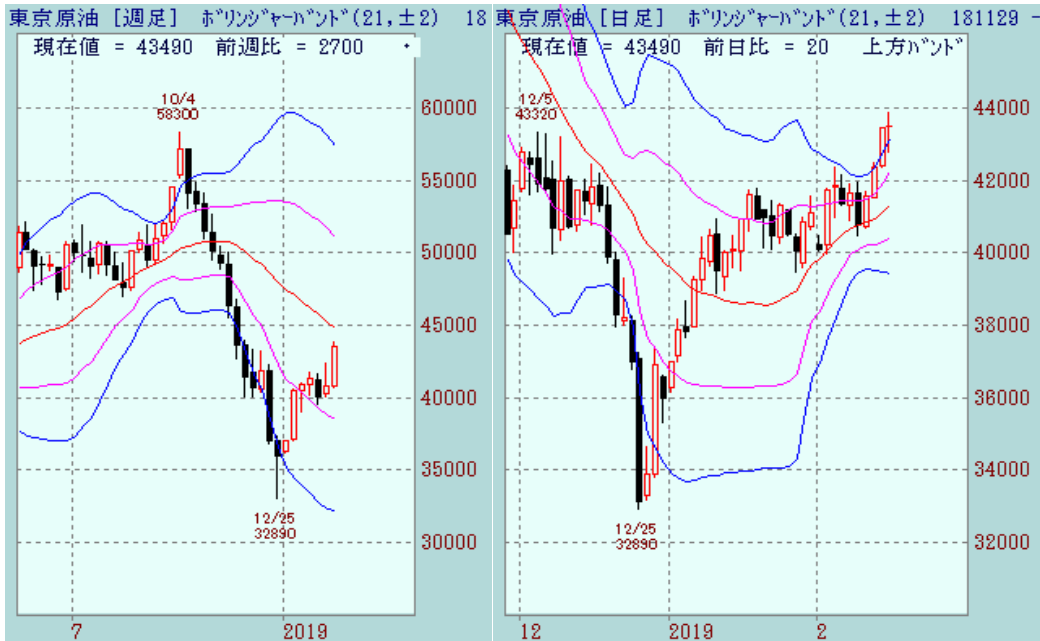


週足はプラス2σを超えて推移し強い上昇トレンドとなっている。日足でもプラス1σを超えて上昇している。プラス1σを下回るまではこのまま上昇トレンドが継続することが予測される。プラス1σを下回った場合でも上昇の勢いは弱まるかもしれないが、上昇トレンドに変わりは無いだろう。週足・日足ともプラス2σが上向きとなっており、これが横ばいになるまでは買いについていきたい。

TOPICSs 他市場はどうか

東京原油は4万5000円付近まで上昇か

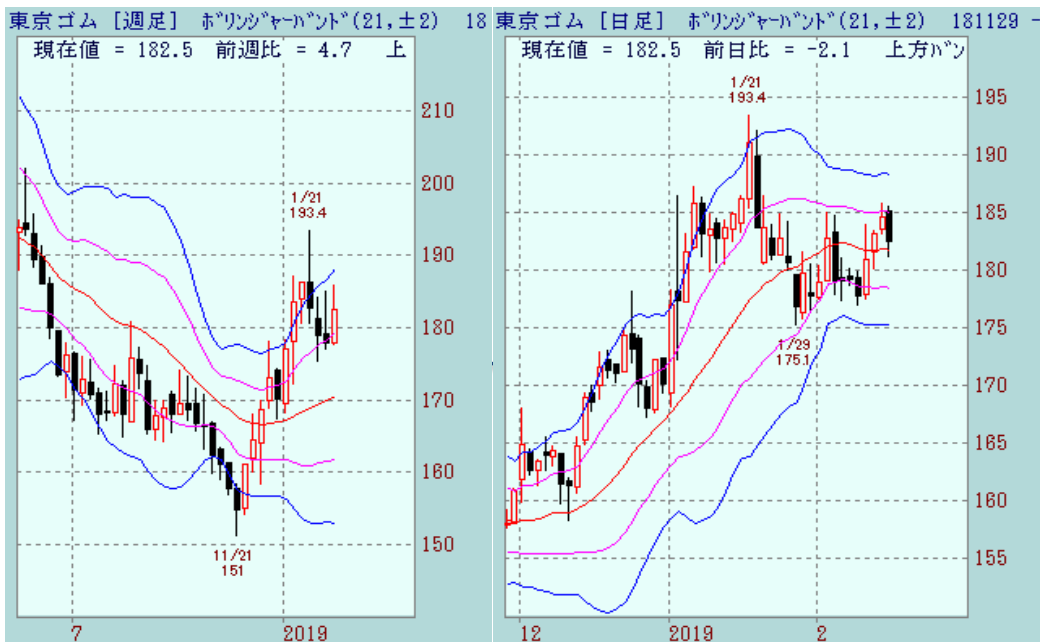
東京原油



週足はマイナス1σを超えると反転上昇となり、センターラインを目指す動きに。日足はプラス1σまで上昇後にレンジ相場となっていたが、レンジを上放れし、プラス2σを超えて上昇している。バンド幅も拡大を始めており、このままバンドウォークとなることが予測される。週足のセンターラインがある4万5000円付近までは一気に上昇することが見込まれる。

東京ゴムは相場の放れ待ち

東京ゴム



週足はバンド幅が拡大しバンドウォークとなっている。一旦反落したもののプラス1σに支えられており、強い上昇トレンドが続いている。日足は1月21日に193.4円まで上昇後は反落している。ただ、上昇してきたマイナス1σに支えられてレンジ相場に入ってきた。今後はレンジ相場の放れにつきたい場面で、1σや2σのラインを超えてきた場合にはその相場の放れた方に動き出すことが予測される。

東京コーンはプラス1σで反発できるか

東京コーン



週足は反発してきたが、終値でセンターラインを超えることができずに終わっている。日足はバンドの収束後にプラス2σを超えると、そのままバンド幅の拡大を伴ってバンドウォークとなり2万4130円まで上昇した。高値からは反落しているものの、プラス1σで反発することができればこのまま上昇トレンドが継続することとなる。プラス1σを割り込んだ場合には緩やかな上昇トレンドまたはレンジ相場へと繋がっていくだろう。

今後の予想

NY金は週足が上昇トレンドで、日足では押し目買いを狙いたい局面。センターラインやマイナス1σからマイナス2σにかけて押し目狙い。

東京金は日足でプラス1σを下回るまではこのまま上昇トレンドが継続。プラス2σが上向きのうちはとなっており、これが横ばいになるまでは買いでついていきたい。

原油は週足はマイナス1σを超えると反転上昇となり、センターラインを目指す動きに。日足はプラス1σまで上昇後にレンジ相場となっていたが、レ上昇トレンドが続くだろう。

ゴムはレンジ相場の放れにつきたい場面で、1σや2σのラインを超えてきた場合にはその相場の放れた方に動き出すことが予測される。

とうもろこしは日足でプラス1σで反発することができればこのまま上昇トレンドが継続することとなる。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：株式会社コモディティー インテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc